



RENKEI

第24号

2023.9

発行元

松江市在宅医療・介護連携支援センター

TEL: (0852) 61-3741 FAX: (0852) 21-5377

メールアドレス: renkei@shakyou-matsue.jp

住所: 〒690-0852 島根県松江市千鳥町70番地 松江市総合福祉センター1階 社会福祉法人松江市社会福祉協議会

ホームページもご活用下さい >>>

松江市在宅医療介護

検索

在宅医療・介護あんしんガイドが出来ました!!

高齢になっても、住み慣れた地域で自分らしく、安心して暮らし続けたいと願っている人は多いのではないのでしょうか。

元気だと思っていっても急に体調を崩したり、今後の生活に不安を感じたりすることは誰にでも起こることです。そんな時、地域の医療・介護・福祉などのサービスを知って活用できる、お役立ち情報をまとめた一冊が、令和5年4月にできました。

松江市医師会、島根県訪問看護ステーション協会松江支部、松江地域介護支援専門員協会等の関係機関に協力いただき、松江市介護保険課と松江市社会福祉協議会が作成いたしました。



地域の出前講座等で終活支援ノートと一緒に配布し、学んでいただいています。

終活支援ノート(松江市作成)も
リニューアルしました!!

地域住民の方から、終活や医療や介護について出前講座の依頼が増えており、関心が高まっているのを感じます。



在宅医療・介護あんしんガイドについては「病院や介護保険のことが一冊で知ることができてよい」「ケアマネジャーや訪問看護師、お医者さん等がどんなことを家でしてくれるのか分かった」等の感想をいただいています。地域の医療介護関係者のみなさまも、日頃の支援に是非ご活用いただければ幸いです。

配布場所: 地域包括支援センター・松江市在宅医療・介護連携支援センター

令和5年度 第1回 松江市病病連携推進会議

今年度も引き続き、松江市内 10 病院の地域連携に係る担当職員の集まり「松江市病病連携推進会議」を 6 月 8 日（木）に開催いたしました。

開催に先立ちまして、4 月から 5 月にかけて松江市内 10 病院（一般病院 7 か所、精神科病院 3 か所）をヒアリングに歩きました。病院の皆さんからは、

- 「各病院の動き～他病院の動きを知っているようで知らない。各々の病院が何を課題として、どんな動きをしているか知りたい」
- 「身寄りのない人の入院について情報共有したい」
- 「医療機能の分化・連携を進めるためには、安来市内病院へもこの会議への参加を呼びかけたらどうか」

など、貴重な意見提供がありました。

そこで、今回から、安来市立病院・安来第一病院・安来市在宅医療支援センターも加わって頂き、松江医療圏域全体での話し合いができるようになりました。

松江赤十字病院、松江市立病院、
松江生協病院、松江記念病院、鹿
島病院、松江医療センター、こなん
ホスピタル、玉造病院、八雲病院、
青葉病院



安来市立病院、
安来第一病院、
安来市在宅医療支援センター



松江と安来の連携を
促進するための支援
をします！

松江圏域の会議として、第 1 回目の今回は、『松江医療圏域 医療・介護資源の現状』を松江市・島根県共同設置松江保健所より、医療構想にに応じて、松江圏域の病床の動き、課題について説明がありました。「保健所の専門相談・啓発事業について、病院との連携の考え」「透析にならない取り組み 増やさない取り組みのコラボ」など保健所活動と病院の意見・情報交換の場となりました。

また、「身寄りのない方への対応について各医療機関での取り組み」について、お互いの状況報告がありました。急性期と転院先病院、ケアマネなどと急性期病院入院時から一緒に取り組みたいという意見もあり、今後の活動につながりました。

訪問看護ステーション松江支部会報告

令和 5 年 7 月 18 日（火）に 3 年ぶりで、直接対面形式で、会議がありました。この 3 年間で、新しく管理者になった方も多く、顔を合わせることで、その団結力は強まったと感じています。

今回は、松江赤十字病院緩和ケアチームから訪問看護ステーション松江支部会への訪問希望があり、意見交換の場となりました。

松江赤十字病院から、「緩和ケアチームの介入」「患者へのサポートの流れやその内容」「病床の使い方」「がん告知時のカウンセリングシステム」「緩和ケアチームが使用する記録用紙、使用ツール」などの紹介、説明があり、その後、質疑応答の形で、活発な意見交換が行われました。

地域の医療・介護関係者の病院側相談窓口及び連絡先について、地域から病院へのフィードバック窓口の質問が多くありました。また、「病院での患者・家族への説明は、どこまでするのか、その理解はどの程度で、確認はどうしているか」「退院カンファレンスで、患者の意思決定情報を知るが、そこまでの患者のプロセス過程の情報が欲しい」「病院主治医とかかりつけ医との連携はどのようにしているか」など、実際に即した有効な話し合いがなされました。

同じ医療職でも、在宅医療を支える側と救急医療や疾患治療の最先端を担う側では、意見の相違があるのは当然です。可能な限り、お互いの意見交換を行う機会を持ったりすること大事であることを痛感しました。

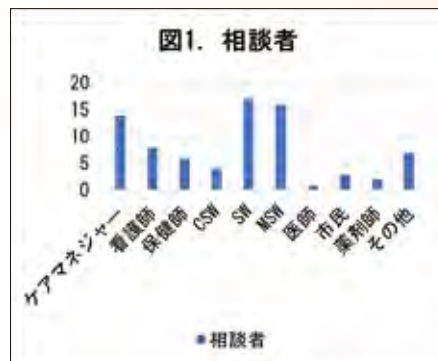


令和4年度 相談内容報告

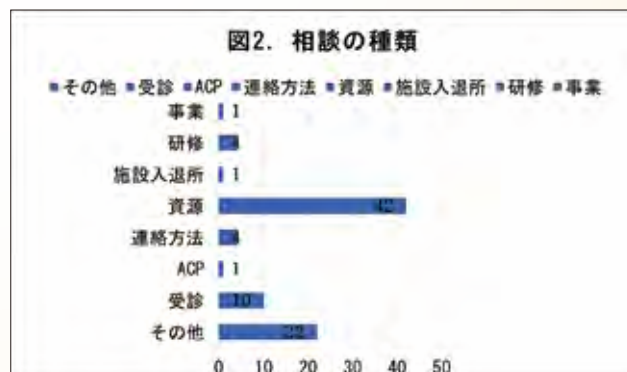
当センターは、医療・介護の関係者の皆様からの相談機能を持っています。

昨年度（令和4年度）の相談をまとめました。

相談の総件数 84 件。主な相談者（図1）は、病院の医療ソーシャルワーカー（MSW）、地域包括支援センター社会福祉士（SW）、地域づくりを担うコミュニティソーシャルワーカー（CSW）、地域のケアマネジャーなど多職種からありました。SW、CSW の相談が多いのは、当センターが社会福祉協議会に位置する特徴ともいえます。



相談内容（図2）は、地域の医療・介護「資源」についての問い合わせが一番多く、42件でした。「その他」は、診療報酬改定に伴う対応、救急搬送、嚥下食についてなど多岐にわたりました。



相談の内容を在宅医療体制の4つの場面に分けると、退院後の療養、治療の継続を踏まえての地域医療対応状況などのお尋ねが多く、「日常」・「入退院」が90%を占めました。

また、最近の相談傾向として、身寄りない方の療養先、他県在住の方のUターンによる療養環境整備（訪問看護ステーションやかかりつけ医選択のための情報提供など）の問い合わせもあるようになりました。相談内容から、時世の特徴や変化を感じております。



消防本部との活動

当センターと松江市消防本部は、住民の皆さんの救急時に備え、円滑な救急医療の連携が取れるよう、日ごろからの準備(「救急医療情報」「救急車利用チェックシート」など)を紹介しています。

今年度は、「救急医療情報」「救急車利用チェックシート」の啓蒙と使用状況確認のために、消防本部と共に、高齢者福祉施設などをまわっています。

先日は、市内デイサービスを訪問し、「救急車利用チェックシート」の使い方の説明をいたしました。「普段から、利用者さんの救急時に備え、使用の検討を行う」と、前向きな意見をいただきました。

消防本部からは、「高齢者施設からの救急要請は多く、このように、一緒に訪問して歩くと救急要請側の事情や様子が把握でき、お互いの連携の役に立つ」と感想ももらいました。

今後も地域の現場で、起きていることの情報収集を心掛け、頑張りたいと思います。



Information ～活用しよう！いろいろな情報～

☆ ホームページをリニューアル いたしました。

「知りたい情報が分かりにくい」と皆様からご意見をたくさんいただきまして、リニューアルしました。お訪ね下さい。



☆ 「松江圏域訪問看護ステーション一覧表」 を改訂しました！

「松江圏域(松江市・安来市)訪問看護ステーション一覧表」を令和5年度改訂しました。

各訪問看護ステーションのアピールポイントに加え、医療対応状況やリハ職配置、リソースナースの配置も組み込んであります。参考にしてください。

《HPアクセス方法》

松江市在宅医療・介護連携支援センター>訪問看護・訪問リハ・高齢者施設情報一覧
>訪問看護ステーション(松江・安来) 一覧